

## 『百折不撓』（ひやくせつふとう）

## 【何度失敗しても挫けそうになっても、決して諦めず強い意思で努力し続けること】

県高校総体もほぼ終了しましたが、最後まで諦めることなく全てを出し尽くせたでしょうか？

高校生活でしかできないこと、それは部活動です。きつく辛い練習は、誰しも嫌で逃げ出したくなるものです。もっと練習しておけば良かった、あのときこうしておけば・・・試合後は、後悔の念にさいなまれるものです。しかし、それを乗り越えた人にしか見られない景色があります。そして、乗り越えられた人は、勝負の勝ち負けに関わらず、大きく成長します。

## 『チャレンジしているうちは失敗はない。あきらめたときに失敗である』

京セラやKDDIを創業し、日本航空（JAL）の再建に尽力した鹿児島出身の稲盛和夫氏の言葉です。

経営の神様と呼ばれた稲盛氏は、2010年に2兆3,221億円もの負債を抱えた日本航空の会長に、無報酬で就任しました。就任1年目で1,884億円の営業利益を記録し、2年目には当時の過去最高となる2,000億円を超える営業利益を達成し、わずか2年8ヶ月という短期間で再建を成し遂げました。その道のりは順風満帆ではなく、当時のマスメディアや多くの社員から誹謗中傷を受けました。稲盛氏は



日本を代表する経営者とはいえ、航空業界のことについては全くの素人だったからです。しかし、稲盛氏は決して諦めることなく、まず社員の意識改革を行いました。その内容は『自分の非を認めて学ぶ、素直な心がないと人間の進歩はない』という考えを反映したものでした。特に、幹部を集めて徹底的にリーダー教育を実施され、“世のため人のために尽くすことが人間として大切である”という信念で取り組まれたそうです。言葉で言うことは簡単ですが、素人が航空業界を知り尽くした玄人に対して実践するのは100倍も1000倍も難しいことだったと思います。『チャレンジしているうちは失敗はない。あきらめたときに失敗である』まさにその言葉通り実践された結果だと思えます。生徒の皆さんはどうでしょうか。やる前から諦めていることはないでしょうか？ 言い訳から始まることはないでしょうか？

高校生は、自分のため、将来のために努力しなければなりません。しかし、社会人は、他人のため、社会のために努力します。働くということは、社会に貢献、人のために誠心誠意尽くすということです。

多くの企業の方々の話を伺って感じることは、多大な企業努力をされているということです。その結果として、給料のベースアップ、休日日数の増加、福利厚生の見直しに表れています。その努力は、私利私欲のためではなく、将来入社してくれる社員のためであり、会社のため、社会全体のためなのです。そのような日本を支える企業の方々によって、豊かな暮らしができています。間違いありません。

生徒の皆さんは、将来の日本を支える貴重な人材です。人のために尽くせる人材を目指すためには、『素直な心』『知識』『経験』が必要です。勉強、部活動、資格取得など鹿工生としてあたり前のことをあたり前に行い、規則正しい私生活と学校生活を日々感謝して過ごすことによって素直な心が育み、知識や経験が積み重ねられていくはずで、人のために誠心誠意尽くせる誠実な人間を目指してください。

- 就職選考試験 9月16日以降（SPI試験対策、面接対策、自己PR・志望動機の準備）
- 公務員試験 9月6日（国家一般職 Web 出願 6月12日より）
- 進学試験（鹿児島高専） 7月19日（Web 出願 6月22日より）